|  |
| --- |
| 市長との細谷・上戸祭地区まちづくり懇談会「意見・要望書」 |
| 提出者 | ふりがな |  | 所属団体 |
| 氏　　名 | 役 職 名　 |
| 住　　所 |  |
| 電話番号 |  |
| テーマ 将来を担う、すべての子どもたちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育の提供を |
| 　・　細谷・上戸祭地域の「地域ビジョン」の策定にあたり「あるべき姿の実現に向けた取組み」として十五項目の課題があります。その中のひとつで、「分野別（６）地域コミュニティ＜障がいとともに生きる人々や多様な人たちを応援するまちづくり＞」を掲げていることは「ビジョン概要版（５頁記載）」の通りであります。「多様な人たち」とは、国籍以外にも、民族、宗教、性的指向、ジェンダー、障がいの有無、出自などにおいて多様な背景を持つ人々などや、様々な事情により勉強することができなかった人、不登校になってしまった人、本国で義務教育を修了せずに日本で生活を始めることになった多様な人たちなど、様々な価値観を持った少数の人たちがいます。　多数の人たちにとっては、当たり前の価値観でも、少数の人たちにとって、当たり前でないことが多々あります。その多様人な人たちが生きやすい「人が人としてよりしあわせに生きることのできる」多様性に富んだ地域社会を創ることが、「しあわせと笑顔のまちづくり」に寄与でき、１０年後・２０年・３０年後も宇都宮に「住んでいて良かったまち」「これからもずっと住み続けたいまち」になるものと思っています。* 我が国の義務教育は全国津々浦々にまで高い水準の教育を普及し、成長を支える人材の

育成に大きな成果を上げ、国際的にも高く評価されてきました。しかし、一方では、これまでの教育で十分に力を伸ばしきれていない子どもたちや、多様な子どもたちのニーズに応えきれていないのも事実です。このような子どもたち、一人ひとりの状況に応じて、その力を最大限に伸ばすために必要な教育を提供する視点に立つことが必要だと考えています。宇都宮市としては、多様な一人ひとりの状況に応じて、将来を担う、すべての子どもたちの能力を伸ばし、可能性を開花させるために必要な教育を提供すべきとお思いなのか。それとも、必要がないとお考えなのか。二者択一で、その理由とともに、ご回答を賜りたくお願いするものであります。＜文部科学省：委員会から大臣への提言内容を一部引用させていただいています。＞・ご回答の内容により、懇談会当日、再意見（要望）をさせていただきます。 |